

(2) 活動継続や負担軽減のためにどんな対応してるの？

- お悩み1 高齢化や後継者不足により共同活動の継続が困難です
- ア 市町単位で広域化しました！ … 19
 - イ 土地改良区単位で合併しました！ … 20
 - ウ 組織同士で合併しました！ … 21
- お悩み2 事務処理が多くて負担です
- ア 多面的機能支払支援ソフトを導入しました！ … 22
 - イ 多面的機能支払事業管理システムを導入しました！ … 23
- お悩み3 草刈りや泥上げなどの作業が辛いです
- ア 大型機械を活用しています！ … 24
 - イ グラウンドカバープランツを植栽し、法面や畦畔を管理しています！ … 25
 - ウ その他にも、こんなことやってます！ … 25
- お悩み4 農家の減少により十分な活動ができません
- ア 学校と連携しています！ … 26
 - イ 土地改良区と連携しています！ … 27
 - ウ 企業と連携しています！ … 27
 - エ 地域住民と意見交換しながら活動しています！ … 27
 - オ 小グループを作って活動しています！ … 28



お悩み1. 高齢化や後継者不足により、共同活動の継続が困難です

19

現在の活動を継続しつつ地域の共同活動による地域資源の保全管理をしていくために、活動組織の広域化の推進により活動の効率化や組織力の強化を図り、地域農業の再編が求められています。

ア 市町単位で広域化しました！

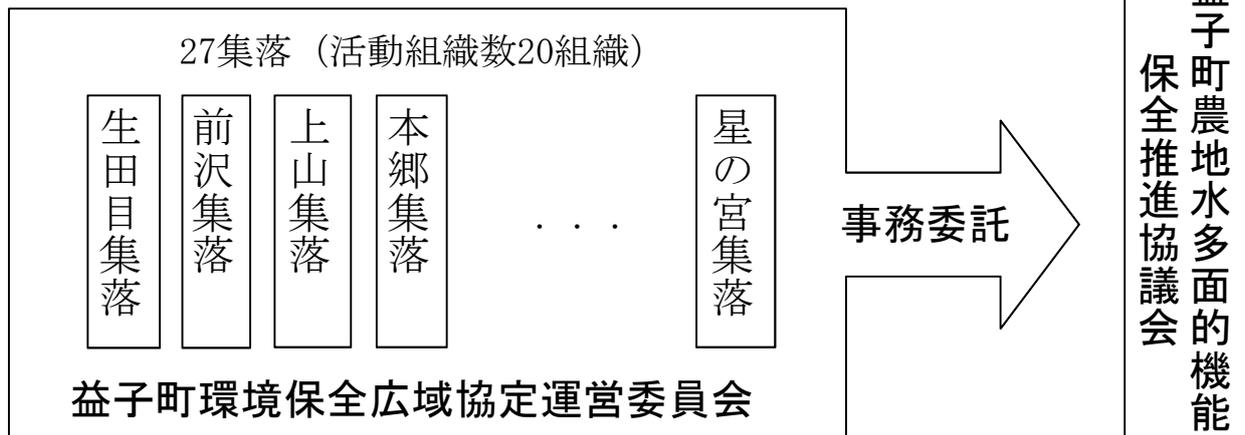
益子町農地水多面的機能保全推進協議会・広域運営委員会

○益子町の基礎データ

取組面積	1,338ha(田:925ha、畑:413ha)
対象農用地面積	1,183ha
面積カバー率	74.1%
資源量	開水路:242.7km、農道:142.3km 他
主な構成員	農業者:845名、非農業者:643名 他
事業費	約7,835万円



○益子町の活動組織と協議会の関係



○設立までの経緯

- ・組織から「事務処理が不安」との声が多数。
⇒平成26年度に「益子町農地水多面的機能保全推進協議会」を設立。
- ・面積の小さい組織から「交付金額が少なく活動が満足にできない」との声が多数。
⇒平成30年度に「益子町環境保全広域協定運営委員会」を設立。

○実感できる効果

- ・組織の事務負担が軽減した。
- ・これまで日当が捻出できなかった地区が対応できるようになった。
- ・活動エリアの隣接地を含め、他地区と連携しながら一体的に管理できるようになった。

○課題及び今後の展望

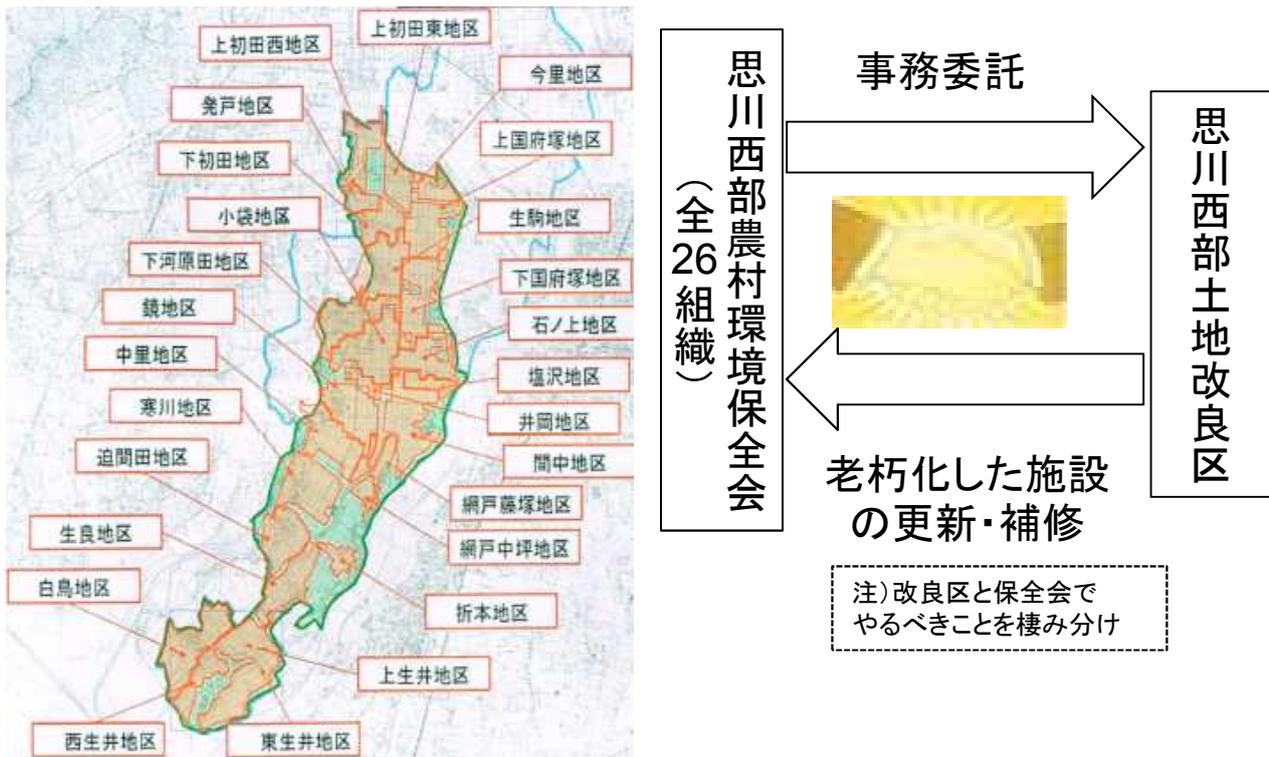
- ・町内には未実施地区がいくつか残っているため、そうした地区への事業の周知や設立支援が必要。
- ・最終的には、益子全域で多面的機能支払交付金の取組実施を目指している。

イ 土地改良区単位で合併しました！ 思川西部農村環境保全会（小山市）

○思川西部農村環境保全会の基礎データ

対象農用地面積	1,829ha(田:1,763ha、畑:66ha)
資源量	開水路:288.2km、農道:176.1km
主な構成員	農業者:1,261名、非農業者:378名
事業費	約8,048万円

○思川西部農村環境保全会と思川西部土地改良区の関係



○設立までの経緯

- ・平成19年度から全20組織が旧農地・水保全管理支払交付金の取組を実施。
- ・平成26年度に多面的機能支払交付金に移行するにあたり、行政指導により新規6組織を加えて改良区単位に統合し、思川西部農村環境保全会を設立。
- ・保全会設立に併せ、思川西部土地改良区と事務委託契約を締結。

○実感できる効果

- ・地区別に行っていた事務や予算管理が一本化され、事務の適正化と負担軽減が図られた。
- ・従来土地改良区が行ってきた維持管理業務を保全会と連携・分担することで、土地改良区の負担軽減も促進された。

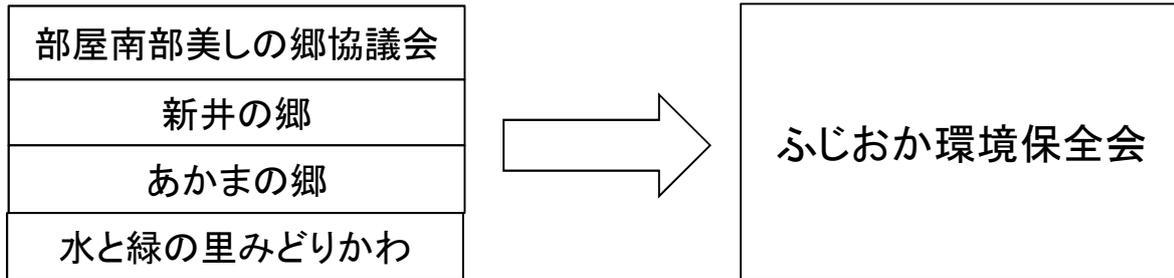
○課題及び今後の展望

- ・合併により可能となった田んぼアートやフラワーロード等を通じた都市部との交流事業に取り組むことにより、子ども達や農業を志す若者に農村環境の現状と大切さを理解してもらい、将来の担い手農家の確保へ繋げていきたい。

○ふじおか環境保全会の基礎データ

対象農用地面積	652ha(田:641ha、畑:11ha)
資源量	開水路:55.4km、農道:37.0km
主な構成員	農業者:480名、非農業者:457名
事業費	約2,247万円

○合併の内容



○合併の経緯

- ・交付金が不足する地域と繰越が多い地域で差があることから、交付金をより活用しやすくするため合併という考えに至った。
- ・合併により事務を一本化すれば土地改良区が事務を受託できることとなったことから、合併への機運が高まった。
- ・藤岡土地改良区内の5組織と合併の意思確認や打ち合わせを重ね、最終的に上記4組織が平成30年度から合併し、活動を開始。

○実感できる効果

- ・合併により、とりまとめ作業の負担が減ったため、活動の実施回数が増えた。
- ・各地域の面積割で交付金額を決めているが、全地域で利用できる共通経費もストックして足りない部分に充てることで、合併前の過不足を補っている。
- ・重機を所有している構成員が、他の地域の重機なしでは困難な作業に従事する等、集落間の連携により活動の幅が広がった。

○課題及び今後の展望

- ・長寿命化への取組について検討しているが、活動面積が増えたため、どこから実施するかの優先順位づけの話し合いをどのようにとりまとめていくかが課題。
- ・植栽や生きもの調査等の非農業者が参加しやすい活動を増やし、地域のコミュニケーションを強化していきたい。
- ・今後増加していくであろう、遊休農地の解消や利活用に取り組んでいきたい。

○国・県・市町・活動組織から構成される本制度では、業務量が多いことに加え、集計作業などを紙やエクセルによる手作業で処理しているため、業務効率や正確性を阻害し、大きな負担となっています。このような状況の改善のための一つの手段として、他県や県内の一部市町ではシステムを導入しており、本県においても検討の必要があると考えております。

ア 県内における事例

多面的機能支払支援ソフトを導入しました！（大田原市）※下野市も導入

○支援ソフトの概要

主な支援対象	活動組織
製品名	多面的機能支払交付金支援ソフト2018
システム概要	エクセルの関数とマクロを使用
動作環境	エクセル2007以降
システム購入費	約10,000円／年

参考)大田原市多面的機能支払推進協議会

- ・平成24年度に協議会設立
- ・大田原市の全59組織のうち、25組織の事務を受託
- ・組織からの事務委託費を活動資金とし、3名体制で活動

○主な機能

- ・参加者名簿兼支払調書の作成
- ・金銭出納簿の作成
(行の挿入・削除、計算式の復活、日付順のソート)
- ⇒実施状況報告書の作成
(金銭出納簿から自動で作成)
- ・年度活動計画の入力
(取組項目、活動時期、活動者、場所)
- ・活動記録の入力
(活動日、人数、取組コード、備考)
- ⇒事業の成果の作成
(チェック表で確認後、自動で作成)
- ⇒活動記録の作成
(チェック表で確認後、自動で作成)

○実感できる効果

- ・書類作成がこれまでよりも容易になった。
- ・簡易なミスが減少した。
- ・様式の統一化により、市町で確認作業がしやすくなった。

○課題

- ・毎年様式の変更があるため、その度にシステム更新の研修会を開催しなければならず、組織と市町の負担となっている。

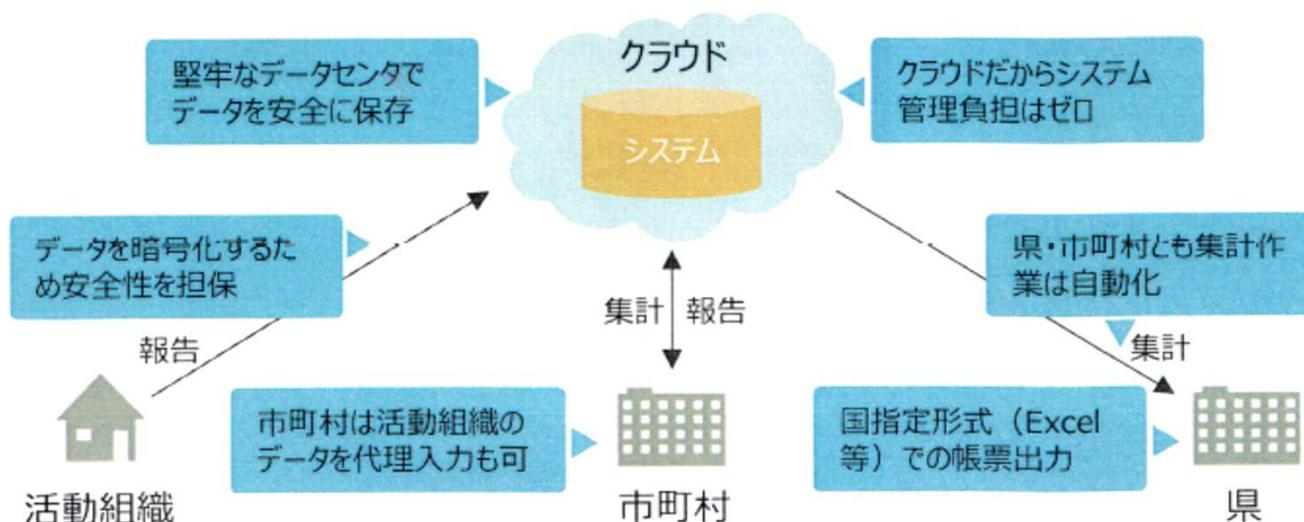
イ 隣接県における事例

多面的機能支払事業管理システムを導入しました！（群馬県）

23

○管理システムの概要

主な支援対象	県、市町、活動組織
製品名	多面的機能支払事業管理システム
システム概要	ウェブ利用(クラウド型)
導入経費	約500万円
運用保守経費	約100万円/年



○システムの機能一覧

メニュー	協議会	県	市町	組織
組織一覧	○	○	○	×
集計一覧	○	○	×	×
交付一覧	○	○	×	×
実施状況とりまとめ	○	○	○	×
基礎情報	○	○	○	○
組織規約	○	○	○	○
活動計画書	○	○	○	○
参加同意書	○	○	○	○
農地情報	○	○	○	×
概算払請求書	○	○	○	○
活動記録	○	○	○	○
金銭出納簿	○	○	○	○
財産管理台帳	○	○	○	○
実施状況報告書	○	○	○	○
総会資料	○	○	○	○
現地確認野帳	○	○	○	×
ファイルアップロード	○	○	○	×

○課題

- ・保守費用・改修費用がかかる。
- ・高齢化により、インターネットやパソコンの利用が難しい組織が多く、利用率が伸び悩む。

○システムの特長

- 【業務効率・正確性の向上】
 - ・全データの自動連携
 - ・データ集計・結果一覧の自動化
 - ・データを活用した業務の俯瞰・分析
- 【利便性の確保】
 - ・国指定形式での帳票出力
 - ・市町村の代理入力
 - ・入力ミスの防止

○実感できる効果

- ・データの自動連携により、活動記録の資料作成が楽になった。
- ・書類関係をシステム管理できるため、引継ぎが容易になった。
- ・協議会、県、市町、活動組織で情報の共有化が図れ、大変便利。
- ・データ保存ができるので過去データが見やすい。
- ・相殺額等の自動計算で職員の負担が軽減された。

○草刈りや泥上げ等の基礎的な農地や周辺施設の維持管理の作業については、多くの時間と労力を要しており、組織の負担となっている。高齢化の進行や担い手が不足している状況のなか、少しでも作業を省力化していくことが必要である。

ア 大型機械を活用しています！

注)大型機械の使用においては、リースや外注等の費用について比較検討をお願いします。

○草刈り機のリース こもりやグリーン倶楽部(宇都宮市)

活動当初は農家が所有している背負い式の草刈り機による作業が大半であったが、労力と時間が掛かったことから、個人が所有する機械のリースを検討。



自走式の草刈り機、トラクタにロータリーを付けたもの、ハンマーナイフモアなど、適材適所の草刈り機を使用することにより人手や時間をカバーできるようになった。



○作業機の共有 あがたんぼの会(足利市)

これまで人力では不可能であった泥上げ等について、構成員が所有している作業機(バックホウ等)を借入れし、泥上げや草刈り等を実施。



個人の対応では不可能であった土砂等について、地域で協力して共同活動を行ったことにより、通水機能が向上。



○大型機械による草刈り グリーンコミュニティあしめま(宇都宮市)

土地改良により一枚の農用地が大きくなり、排水路が大きくなったため、農用地法面の手作業による草刈りが困難になった。雑草が繁茂する5月から10月にかけて5~6回専任のオペレーターにより活動エリア内の草刈りを大型機械で実施。



会員の草刈り作業が軽減され、急傾斜の法面での危険作業が無くなった。



○機械による泥上げ 田中坪泣地蔵の郷をまもる会(大田原市)

排水路が土で埋まり、一部農地に排水が逆流するほ場も見受けられていたため、地域で設備業を営んでいる構成員から泥上げ用のノリバケットと重機を借り上げ、重機の経験がある構成員が交代で泥上げを実施。



大雨が降ったときにほ場の水尻から水が逆流していたほ場も排水性が向上し、農作物の生産性向上にも寄与。



○タマリユウの植栽 チーム清南夢畑(宇都宮市)

風雨による農用地や農道路肩法面からの土砂流出防止と良好な景観形成のため、タマリユウの植栽を実施。

タマリユウは遊休農地等で生産(増殖)ができる。



○シバザクラの植栽

奥沢地域環境保全会
(大田原市)



○ヒガンバナの植栽



春名塚環境保全会
(栃木市)



小山用水保全協議会
(小山市)

○シバの植栽



小林1・2区地域資源
保全会(日光市)



大室農地水管理委員会
(日光市)



上薄葉環境保全会
(大田原市)



越堀自然を守る会
(那須塩原市)

ウ その他にも、こんなことやってます！

○防草シート

一区町地域資源保全隊
(那須塩原市)



○自動給水栓による省力化

北和田環境を守る会
(那須塩原市)



○法面への小段の設置

芹沼多面的機能活動組織
(日光市)



お悩み4. 農家の減少により十分な活動ができません

○農村環境を維持・保全していくためには、農家だけでなく、非農家も含めた多様な主体と連携し、地域全体が一体となって活動を継続していくことが求められています。

ア 学校と連携しています！

富屋西部ホタル愛護会（宇都宮市）



ホタルの学習会



ホタル幼虫放流会

富屋小学校の3年生へ、総合的な学習の時間を利用して学習会や校内での飼育観察、幼虫の放流、ホタル観察会を実施しています。

地域の合い言葉
「仲が良ければ何でも出来る」



久那瀬農地水環境保全会（那珂川町）



生きもの調査

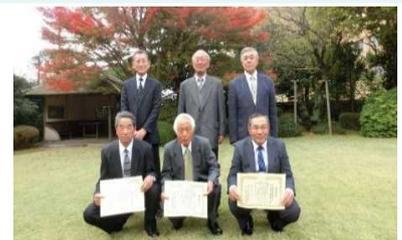


魚道の設置

馬頭高校水産科の生徒と一緒に、生きもの調査や生態系保全活動を実施している。年々子どもの参加人数が減る中で、生徒に参加してもらうことで活動がとても活気づき、高校側にとっても、野外授業の参考となっている。

平成30年度「栃木県青少年育成県民会議表彰」において多面的機能支払活動組織3団体が表彰

「とちぎの元気な子ども育て隊」宣言企業等のうち、「思川西部農村環境保全会」「逆面エコ・アグリ」の里」「三区町環境保全隊」の多面的機能支払活動組織3団体が、平成30年度栃木県青少年育成県民会議表彰において、子ども育成活動に取り組んできたことが評価され、表彰されました。



(参考) 多面的機能支払活動組織における「とちぎの元気な子ども育て隊!!」宣言企業等の一覧

市町名	活動組織等	主な活動内容
宇都宮市	逆面エコ・アグリ」の里	生きもの調査、ホタル観察、フクロウを育む里探訪、獅子舞教室、田植え・稲刈り体験
宇都宮市	申内環境保全会	生きもの調査、農産物の収穫体験
宇都宮市	白沢保全隊	生きもの調査、河川の汚濁防止
小山市	思川西部土地改良区 (思川西部農村環境保全会)	田んぼアート、農業体験、職場体験、祭り
小山市	絹土地改良区 (絹保全協議会)	田んぼアート、田植え、稲刈り
小山市	みたとうぶ保全会	生きもの調査、生態系保全、景観保全
那須塩原市	三区町環境保全隊	生きもの調査、農業体験学習
那須塩原市	沼野田和環境保全会	生きもの調査、清掃活動、花畑づくり

イ 土地改良区と連携しています！

27

尻内梓環境保全会（栃木市）



地元の土地改良区に事務委託している。土地改良区で管理しきれない小規模な水路について、交付金を活用して維持管理を行う意向で地域全体がまとまった。

水路等の点検については、年に1回、地域住民で行っており、改良区で管理しきれない部分をカバーできている。

荒川南部地域保全会（那須烏山市）



- ・事務作業に慣れている土地改良区の事務局に事務委託しており、作業の負担軽減がされている。
- ・土地改良区の事業と連動し、地域課題について柔軟に対応できている。
- ・地域内の環境保全に対する意識と意欲の向上につながっている。
- ・土地改良区では目が届きにくい細部についても、保全会で把握し、維持管理や景観の保全管理等を実施できている。

ウ 企業と連携しています！

チーム清南夢畑（宇都宮市）



活動エリア内の遊休農地について、企業と連携して農地維持活動（草刈り、用水路脇の小枝切り）等を実施している。

竹の処分費をチップ化することにより軽減し、一部土壌改良剤として有効活用している。

エ 地域住民と意見交換しながら活動しています！

鴻之宿の環境を守る会（市貝町）



農家が地域内で減少してきている現状を踏まえ、農家だけではなく地域に住んでいる農家以外の方と協力し、地域の環境を守っていくために互いの意見を交換し合う場を設けている。

様々な意見を交換することにより、農家と非農家の交流を生み、非農家の地域環境を守るための活動への参加率が向上した。

三区町環境保全隊（那須塩原市）

活動組織の中に小さなグループを多数作ることで、女性や若者の参加を促す工夫を行っている。



○三区町環境保全隊を支える小グループ

団体名	農業者	非農業者	計	年齢構成	内容
農協女性会	10	3	13	50～70代	・植栽活動やイベントでのおにぎりづくり等
ひまわり会	4		4	50～60代	・植栽活動やイベントでのおにぎりづくり等
おひさまの会		3	3	50～60代	・生きもの調査や農業体験等での受付や気配り ・植栽活動
三区女性の集い	15	7	22	50～70代	・景観形成活動の年度計画の策定 ・女性間の連携強化
三区ど～すっ会	11	4	15	30～50代	・農業体験活動の企画運営等 (次期後継者の育成としての位置づけ)
農業体験応援隊	2	7	9	60～70代	・農業体験のサポート等
ゴミゼロパトロール隊		6	6	60～70代	・地域内のゴミゼロパトロール ・地域内のゴミ拾い活動(月1回)
生態系保全委員会	9	4	13	50～70代	・生態系保全活動の計画策定
三区の農業を考える会	15	1	16	30～70代	・地域資源保全管理構想の協議 ・三区農業の将来についての話し合い
草刈り協力隊	5	3	8	60～70代	・草刈り作業者減少への対応 ・共有場所の草刈り
共同草刈り隊	17		17	50～70代	・農用地の畦草刈り

○トピックス 『活動を復活しました！』 申内環境保全会(宇都宮市)

【活動を休止した経緯】

- ・施設の補修が十分実施できた。
- ・植栽など地域の美化活動が根付いた。
- ・次に引き継ぐ役員の後継者がいなかった。



【活動を再開した理由】

- ・農家、農村環境を守っていくためには、共同活動を再開する必要があるだろうという機運の高まり。
- ・多面的機能支払交付金を有効に活用したいという思い。
- ・組織の動きがなくなったことで、会員同士の交流の場が減ってしまったことへの残念な思い。

↓
女性たちが中心となり、申内環境保全会を結成し、活動を再開した。

【再開後の状況】

- ・活動への参加が強制されないこと、女性の役員が多く、参加しやすい雰囲気となったことから、共同活動の参加者が増加した。
- ・活動を広げ、顔見知りが増えたことで、地域住民のコミュニケーションが活性化した。
- ・収穫体験後の食事会は女性が中心に、法面の草刈りや水門のごみ浚いなどの力仕事は男性が中心に作業するなど、得意分野をそれぞれ担当することで、お互いの良い面を引き出す良好な関係を築いている。

